貴女の美しさを演出する店

㈲ほてい屋

代表取締役　須田衣子 さん

柏崎市東本町三丁目4-37
Tel. 0257-22-2228

日差しが強くなっていく五月下旬。東本町三丁目に在ります、ほてい屋さんに伺いました。

穏やかな笑顔の店主、須田衣子（きぬこ）さんにお話を伺いました。

ほてい屋さんは、明治四十五年創業、今年で百十年になるそうです。

衣子さんのおじい様が、東京の伊勢丹の横にありました呉服屋ほてい屋で修業後、のれん分けをして頂き、柏崎市東本町に、ほてい屋を開業し、当時は、呉服と洋服地を取り扱っていました。

お名前の通り、着物の申し子といわれるほど、着物が大好きな衣子さん。一九四九年生まれの七十二才。ほてい屋がご実家です。ご家族は、子供さんがお二人。去年の一月にお孫さんが生まれました。

大学二年生の時に、お父様から送られた雑誌の中に、着物コンサルタント学校の記事を見つけ、夜間部に通いました。大学卒業後も、柏崎から月に二回通い続け、資格を取りました。

お姉さんと二人のお兄さんは、それぞれ県外に出て、末っ子の衣子さんが、ほてい屋を継ぎました。

東本町通りの道路拡張により土地が狭くなり、現在の店舗に建て替え、一九八一年に子供服専門店かくれんぼを併設し、六月三日で四十一周年になります。

その当時、柏崎には子供服の専門店は無く、ご自身の子供さんの服も思うものが無く、お店を創め、おしゃれな子供服が話題となり、お客様も増えてきたそうです。

お店は衣子さんと勤続年数三十年の髙野さんのお二人で営んでいます。

着付け教室の生徒さんの中には、ご自分の娘さんに着物を着せてあげたいという方も多いそうです。また、まちゼミでの浴衣の着付け教室は、髙野さんが担当しています。衣子さん曰く、「きものを着るも着せるも基本が大事。だけどアレンジは無限大。だから同じものはできないのよ！」と。

「最近の断捨離ブームで、着物は、邪魔にされて持ち込まれてくるの」と。お店には、持ち込まれた着物が沢山あり、チャリティーに出したりしているそうです。素敵な刺繍を生かしたいと、いろいろ知恵を出しているお話を伺いました。本当に着物が大好きなんですね。

新型コロナウイルスの影響で、東京へ仕入れに行けないのが悩みだそうです。電話やファックスでの注文は、実際の色あいや素材感、手触り等、難しいとのことです。

ほてい屋とかくれんぼの売りといえば、季節ごとに飾られているショーウィンドー。作品は、自称、芸大カッター同好会と言うご主人（二十五年前に他界）から、髙野さんに引き継がれています。すべて手作りだそうです。ほてい屋、かくれんぼの前を通る時は、ぜひご覧ください。

（十人衆 ㊐・㊐ 取材）

柏崎元気人登場 なじょだね とは……？

当紙に掲載している『柏崎元気人登場 なじょだね』は、柏崎地域の事業所を取材に行き、代表者の人となりや会社に込める想い、どのようなお仕事を行っているかなどをご紹介するコーナーです。

取材には、商工会議所の会員で、会議所と会員の皆様とのパイプ役として活動を行っている小規模企業振興委員会の中から十名の方より『なじょだね編集委員』を務めていただき、毎月分担しながら取材・原稿作成を行っています。

様々なお仕事で活躍されている会員の方々をご紹介していきますので、ご期待ください。